

食事パターンとがんに関するエビデンステーブル(研究結果の一覧)

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象者 (年齢層・ 調査対象)	調査方法 研究デザイン	調査項目			結果		
					食事調査方法	テーマに関連する調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性に関する調査項目)	利点、重要性に関する調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
1	Masaki Motofumi, et al (2003)	東京都とその近郊	JACC研究の東京地区参加者40-69歳、男性、5,644人	前向き研究 追跡期間10年	食物摂取頻度調査 (FFQ)	5644人の男性勤労者を対象に、26食品に基づき抽出された食事パターン “野菜・果物パターン”は、キャベツ、レタス、緑の葉野菜、にんじん、柑橘類、その他の果物の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 18%)	胃がん発症	野菜・果物パターン 得点の三分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、得点による胃がん発症リスクに差は見られなかった。 相対危険度 (95%信頼区間) 第1三分位 1.00 (基準) 第2三分位 1.03 (0.60-1.78) 第3三分位 1.00 (0.58-1.74) 傾向性P値 = 0.99	性別 BMI 教育歴 消化性潰瘍既往 胃がん家族歴 喫煙状況 飲酒状況	食事パターン 胃がん 成年男性
						“欧米朝食パターン”は、パン、バター、チーズ、ハム、ソーセージ、コーヒーの高摂取と米飯、海藻、豆乳、漬物の低摂取に特徴づけられる。(説明率: 9%)		欧米朝食パターン 得点の三分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、得点による胃がん発症リスクに差は見られなかった。 相対危険度 (95%信頼区間) 第1三分位 1.00 (基準) 第2三分位 0.80 (0.47-1.36) 第3三分位 0.77 (0.46-1.31) 傾向性P値 = 0.57		
						“肉パターン”は、豚肉、牛肉、鶏肉の高摂取とトマトと他の果物の低摂取に特徴づけられる。(説明率: 6%)		肉パターン 得点の三分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、得点による胃がん発症リスクに差は見られなかった。 相対危険度 (95%信頼区間) 第1三分位 1.00 (基準) 第2三分位 0.71 (0.41-1.23) 第3三分位 1.20 (0.72-2.01) 傾向性P値 = 0.17		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目		結果			
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						“米/スナックパターン”は、米飯、 みそ汁、クッキー、オレンジジュース の高摂取と野菜の低摂取に特徴づ けられる。(説明率: 5%)		米/スナックパターン 得点の三分位で対象者を分け、相対危険 度を算出した結果、得点による胃がん発 症リスクに差は見られなかった。 相対危険度 (95%信頼区間) 第1三分位 1.00 (基準) 第2三分位 0.57 (0.32-1.03) 第3三分位 1.12 (0.68-1.82) 傾向性P値 = 0.07		
2	Kim Mi Kyung, et al (2004)	全国4保健 所管内	JPHC コ ホート1参 加者 40-59歳、 42,112人 (男性 20,300人、 女性 21,812人)	前向 き研 究 追跡 期間 10年	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	JPHC研究参加者の男性20,300人、 女性21,812人を対象に、44食品・飲料 に基づき男女別に抽出された食事パ ターン 健康食パターンは、野菜、果物、大豆 製品、海藻、きのこ類、牛乳、豆 類、ヨーグルトの高摂取に特徴づけ られる。	胃がん発症	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険 度を算出した結果、男性では得点によ る胃がん発症リスクに差は見られな かったものの、女性では、最も得点 が低い群に比べ最も高い群で統計学 的に有意にリスクが44%低かった。 相対危険度 (95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.00 (0.70-1.45) 第3四分位 1.06 (0.74-1.53) 第4四分位 1.13 (0.78-1.63) 傾向性P値 = 0.39 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.57 (0.33-0.97) 第3四分位 0.77 (0.47-1.26) 第4四分位 0.56 (0.32-0.96) 傾向性P値 =0.03	年齢 BMI 総エネルギー 摂取量 教育歴 胃がん家族歴 喫煙歴(男性の み) 飲酒状況(男性 のみ)	食事パター ン 胃がん 成年男女

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目		結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整 キーワード
						伝統食パターンは、漬物、塩漬け 魚、魚介類、米飯、みそ汁、アル コール(男性のみ)の高摂取とパン とバターの低摂取に特徴づけられ る。		伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険 度を算出した結果、最も得点が低い群に 比べ最も高い群は、統計学的有意に男性 では2.9倍、女性では2.4倍リスクが高かつ た。 相対危険度(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 1.97(1.25-3.12) 第3四分位 2.47(1.55-3.94) 第4四分位 2.88(1.76-4.72) 傾向性P値 < 0.0001 女性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 1.70(0.93-3.12) 第3四分位 1.28(0.68-2.44) 第4四分位 2.40(1.32-4.35) 傾向性P値 = 0.007	
						欧米食パターンは、肉、鶏肉、チー ズ、パン、バターの高摂取に特徴づ けられる。		欧米食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険 度を算出した結果、男女ともに得点による 胃がん発症リスクに差は見られなかった。 相対危険度(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.99(0.71-1.37) 第3四分位 0.88(0.63-1.24) 第4四分位 0.85(0.60-1.38) 傾向性P値 = 0.45 女性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.94(0.56-1.57) 第3四分位 0.92(0.54-1.56) 第4四分位 1.13(0.66-1.93) 傾向性P値 = 0.42	

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							胃がん発症 (differentiated type)	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険 度を算出した結果、男女ともに得点による 胃がん発症リスクに差は見られなかった。 相対危険度 (95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.91 (0.57-1.45) 第3四分位 0.97 (0.61-1.53) 第4四分位 1.11 (0.70-1.76) 傾向性P値=0.29 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.53 (0.21-1.34) 第3四分位 0.81 (0.35-1.88) 第4四分位 0.62 (0.25-1.54) 傾向性P値=0.31		
								伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険 度を算出した結果、最も得点が低い群に 比べ最も高い群は、統計学的有意に男性 では2.7倍リスクが高かった。 相対危険度 (95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 2.05 (1.16-3.62) 第3四分位 2.37 (1.32-4.28) 第4四分位 2.67 (1.42-5.02) 傾向性P値 <0.0001 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.82 (0.60-5.49) 第3四分位 1.79 (0.60-5.39) 第4四分位 2.40 (0.83-6.97) 傾向性P値=0.06		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
								欧米食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男女ともに得点による胃がん発症リスクに差は見られなかった。相対危険度 (95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.07 (0.71-1.62) 第3四分位 1.07 (0.70-1.64) 第4四分位 0.88 (0.56-1.38) 傾向性P値=0.45 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.67 (0.26-1.70) 第3四分位 1.23 (0.54-2.77) 第4四分位 0.86 (0.34-2.22) 傾向性P値=0.68		
							胃がん発症 (undifferentiated type)	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男性では得点による胃がん発症リスクに差は見られなかったものの、女性では、最も得点が低い群に比べ最も高い群で統計学的有意にリスクが54%低かった。相対危険度 (95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.37 (0.73-2.58) 第3四分位 1.10 (0.57-2.15) 第4四分位 1.24 (0.64-2.40) 傾向性P値=0.71 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.57 (0.29-1.15) 第3四分位 0.79 (0.42-1.49) 第4四分位 0.46 (0.22-0.96) 傾向性P値=0.04		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
								伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群は、統計学的有意に男性では4.9倍、女性では2.3倍リスクが高かった。 相対危険度(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 2.50(1.02-6.12) 第3四分位 3.27(1.32-8.12) 第4四分位 4.92(1.92-12.6) 傾向性P値=0.006 女性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 1.32(0.60-2.89) 第3四分位 1.03(0.45-2.37) 第4四分位 2.31(1.09-4.89) 傾向性P値=0.03 欧米食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男女ともに得点による胃がん発症リスクに差は見られなかった。 相対危険度(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.78(0.44-1.37) 第3四分位 0.64(0.35-1.17) 第4四分位 0.78(0.44-1.40) 傾向性P値=0.96 女性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.96(0.48-1.93) 第3四分位 0.87(0.42-1.81) 第4四分位 1.40(0.70-2.78) 傾向性P値=0.30		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目		結果			
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
3	Kim Mi Kyung, et al (2005)	全国4保健 所管内	JPHC研究 コホート1 参加者 40-59歳、 42,112人 (男性 20,300人、 女性 21,812人)	前向 き研 究 追跡 期間 10年	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	JPHC コホートI対象者の42112人 (男性20300人、女性21812人を対象 に、44食品・飲料に基づき抽出され た食事パターン 健康食パターンは、野菜、果物、大 豆製品、海藻、きのこ類、牛乳、豆 類、ヨーグルトの高摂取に特徴づけ られる。	大腸がん発症	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険 度を算出した結果、男女ともに得点による 大腸がん発症リスクに差は見られなかつ た。 相対危険度(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.88(0.60-1.30) 第3四分位 1.01(0.69-1.48) 第4四分位 0.81(0.52-1.24) 傾向性P値=0.80 女性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.94(0.58-1.51) 第3四分位 0.80(0.48-1.32) 第4四分位 0.98(0.58-1.65) 傾向性P値=0.82	年齢 BMI 調査地域(健 康食パターン 欧米食パター ンのみ) 総エネルギー 摂取量 教育歴 身体活動量 大腸がん家族 歴 喫煙状況(男性 のみ) 飲酒状況(男性 のみ)	食事パター ン 大腸がん 成年男女
						伝統食パターンは、漬物、塩漬け 魚、魚介類、米飯、みそ汁、アル コール(男性のみ)の高摂取とパン とバターの低摂取に特徴づけられ る。		伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険 度を算出した結果、男女ともに得点による 大腸がん発症リスクに差は見られなかつ た。 相対危険度(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.89(0.58-1.36) 第3四分位 0.91(0.58-1.42) 第4四分位 0.88(0.55-1.42) 傾向性P値=0.70 女性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 1.06(0.64-1.76) 第3四分位 0.96(0.57-1.63) 第4四分位 1.53(0.93-2.52) 傾向性P値=0.23		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法	調査項目		結果				
				食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード		
						欧米食パターンは、肉、鶏肉、チーズ、パン、バターの高摂取に特徴づけられる。		欧米食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男女ともに得点による大腸がん発症リスクに差は見られなかった。 相対危険度(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.98(0.67-1.43) 第3四分位 0.96(0.65-1.41) 第4四分位 0.93(0.62-1.41) 傾向性P値=0.85 女性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 1.31(0.81-2.12) 第3四分位 1.22(0.73-2.03) 第4四分位 1.45(0.85-2.48) 傾向性P値=0.59			
							結腸がん発症	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男女ともに得点による結腸がん発症リスクに差は見られなかった。 相対危険度(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.97(0.60-1.54) 第3四分位 1.13(0.71-1.80) 第4四分位 0.83(0.49-1.41) 傾向性P値=0.62 女性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.88(0.48-1.60) 第3四分位 1.02(0.57-1.85) 第4四分位 0.76(0.39-1.50) 傾向性P値=0.68			

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
								伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男女ともに得点による結腸がん発症リスクに差は見られなかった。 相対危険度 (95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.06 (0.63–1.76) 第3四分位 1.01 (0.58–1.76) 第4四分位 1.05 (0.58–1.90) 傾向性P値=0.68 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.20 (0.63–2.29) 第3四分位 1.04 (0.53–2.05) 第4四分位 2.06 (1.10–3.84) 傾向性P値=0.11		
								欧米食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男女ともに得点による結腸がん発症リスクに差は見られなかった。 相対危険度 (95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.15 (0.72–1.82) 第3四分位 1.11 (0.69–1.79) 第4四分位 1.05 (0.63–1.75) 傾向性P値=0.73 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 2.01 (1.07–3.81) 第3四分位 1.80 (0.92–3.52) 第4四分位 2.21 (1.10–4.45) 傾向性P値=0.74		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							近位結腸がん発 症	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険 度を算出した結果、男女ともに得点による 近位結腸がん発症リスクに差は見られな かった。 相対危険度(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.73(0.35-1.52) 第3四分位 0.90(0.45-1.82) 第4四分位 0.68(0.32-1.47) 傾向性P値=0.83 女性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.45(0.18-1.13) 第3四分位 0.67(0.29-1.52) 第4四分位 0.47(0.18-1.23) 傾向性P値=0.96 伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険 度を算出した結果、男女ともに得点による 近位結腸がん発症リスクに差は見られな かった。 相対危険度(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 1.17(0.53-2.56) 第3四分位 0.91(0.39-2.16) 第4四分位 1.06(0.44-2.55) 傾向性P値=0.97 女性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 1.17(0.45-3.07) 第3四分位 0.75(0.25-2.20) 第4四分位 2.07(0.84-5.12) 傾向性P値=0.20		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
								欧米食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男女ともに得点による近位結腸がん発症リスクに差は見られなかった。 相対危険度 (95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.37 (0.67-2.78) 第3四分位 1.37 (0.66-2.85) 第4四分位 1.17 (0.53-2.56) 傾向性P値=0.61 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.89 (0.78-4.61) 第3四分位 1.62 (0.62-4.20) 第4四分位 1.66 (0.60-4.64) 傾向性P値=0.87		
						遠位結腸がん発症		健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男女ともに得点による遠位結腸がん発症リスクに差は見られなかった。 相対危険度 (95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.18 (0.61-2.29) 第3四分位 1.36 (0.69-2.68) 第4四分位 1.10 (0.52-2.36) 傾向性P値=0.93 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.84 (0.76-4.45) 第3四分位 1.48 (0.57-3.82) 第4四分位 1.50 (0.53-4.21) 傾向性P値=0.62		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
								伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男女ともに得点による遠位結腸がん発症リスクに差は見られなかった。 相対危険度 (95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.91 (0.43–1.92) 第3四分位 1.24 (0.58–2.63) 第4四分位 1.21 (0.53–2.77) 傾向性P値=0.26 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.25 (0.53–2.99) 第3四分位 1.12 (0.44–2.84) 第4四分位 1.84 (0.75–4.50) 傾向性P値=0.53		
								欧米食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険度を算出した結果、男女ともに得点による遠位結腸がん発症リスクに差は見られなかった。 相対危険度 (95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.04 (0.55–1.98) 第3四分位 0.89 (0.44–1.77) 第4四分位 1.10 (0.55–2.20) 傾向性P値=0.84 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 2.15 (0.80–5.77) 第3四分位 2.18 (0.79–6.03) 第4四分位 3.48 (1.25–9.65) 傾向性P値=0.30		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							直腸がん発症	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険 度を算出した結果、男女ともに得点による 直腸がん発症リスクに差は見られなかつ た。 相対危険度(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.74(0.38-1.43) 第3四分位 0.79(0.40-1.54) 第4四分位 0.76(0.37-1.58) 傾向性P値=0.76 女性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 1.05(0.48-2.30) 第3四分位 0.33(0.11-1.05) 第4四分位 1.43(0.62-3.28) 傾向性P値=0.34 伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険 度を算出した結果、男女ともに得点による 直腸がん発症リスクに差は見られなかつ た。 相対危険度(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.59(0.28-1.29) 第3四分位 0.73(0.35-1.54) 第4四分位 0.62(0.28-1.39) 傾向性P値=0.87 女性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.87(0.39-1.97) 第3四分位 0.84(0.37-1.94) 第4四分位 0.85(0.36-2.02) 傾向性P値=0.84		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
								欧米食パターン 得点の四分位で対象者を分け、相対危険 度を算出した結果、男女ともに得点による 直腸がん発症リスクに差は見られなかつ た。 相対危険度(95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.71(0.37-1.37) 第3四分位 0.70(0.36-1.39) 第4四分位 0.73(0.36-1.46) 傾向性P値=0.87 女性 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.66(0.30-1.46) 第3四分位 0.68(0.30-1.55) 第4四分位 0.77(0.32-1.83) 傾向性P値=0.64		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目		結果			
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
4	Mizoue Tetsuya, et al (2005)	福岡県、熊 本県	自衛官健康研究参加者 平均年齢 52歳、大腸 内視鏡を 受診した男 性、1,341 人	横断 研究	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	大腸ポリープもしくはがんのない男 性995人を対象に、39食品群に基づ き抽出された食事パターン DFSA食事パターンは、発酵乳製 品、牛乳、菓子、パン、果物、野菜 の高摂取と焼酎の低摂取に特徴づ けられる。(説明率: 8.5 %)	大腸腺腫有病	DFSA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、最も得点が低い群に比 べ最も高い群で統計学的有意に大腸腺 腫有病のオッズが38%低かった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.97 (0.70-1.36) 第3四分位 0.71 (0.50-1.01) 第4四分位 0.62 (0.43-0.90) 傾向性P値=0.003	病院 年齢 両親の大腸が ん歴 職位 BMI 喫煙状況 余暇の身体活 動量	食事パター ン 大腸腺腫 自衛官 成年男性
						動物食品食事パターンは、多様な 動物性食品(赤肉、鶏肉、魚以外の 魚介類、加工肉、魚加工品)と揚げ 物、焼き物の高摂取に特徴づけら れる。(説明率: 7.9%)		動物食品食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による大腸腺腫有 病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.87 (0.61-1.23) 第3四分位 0.91 (0.64-1.28) 第4四分位 0.86 (0.60-1.23) 傾向性P値=0.49		
						日本食パターンは、日本の伝統食 品(大豆製品、海藻、漬物、緑茶)、 野菜、魚介類の高摂取に特徴づけ られる。(説明率: 7.7%)		日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による大腸腺腫有 病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.96 (0.67-1.38) 第3四分位 1.13 (0.79-1.61) 第4四分位 1.18 (0.83-1.69) 傾向性P値=0.26		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							結腸腺腫有病	DFSA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ最も高い群で統計学的有意に結腸腺腫有病のオッズが41%低かった。 オッズ比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.93(0.66-1.32) 第3四分位 0.70(0.48-1.01) 第4四分位 0.59(0.40-0.87) 傾向性P値=0.003 動物食品食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、得点による結腸腺腫有病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.93(0.64-1.35) 第3四分位 0.97(0.67-1.40) 第4四分位 0.95(0.65-1.38) 傾向性P値=0.85 日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、得点による結腸腺腫有病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.93(0.64-1.37) 第3四分位 1.09(0.76-1.59) 第4四分位 1.11(0.77-1.62) 傾向性P値=0.45		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							近位結腸腺腫有 病	DFSA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、最も得点が低い群に比 べ最も高い群で統計学的有意に近位結 腸腺腫有病のオッズが50%低かった。 オッズ比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 1.00(0.64-1.54) 第3四分位 0.67(0.41-1.09) 第4四分位 0.50(0.30-0.85) 傾向性P値=0.003 動物食品食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による近位結腸腺 腫有病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.84(0.51-1.39) 第3四分位 1.08(0.68-1.73) 第4四分位 0.94(0.57-1.53) 傾向性P値=0.95 日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による近位結腸腺 腫有病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.87(0.53-1.42) 第3四分位 0.92(0.56-1.49) 第4四分位 1.08(0.67-1.74) 傾向性P値=0.70		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							遠位結腸腺腫有 病	DFSA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による遠位結腸腺 腫有病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.00 (0.64-1.54) 第3四分位 0.77 (0.48-1.23) 第4四分位 0.68 (0.42-1.11) 傾向性P値=0.08 動物食品食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による遠位結腸腺 腫有病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.01 (0.63-1.62) 第3四分位 0.95 (0.59-1.52) 第4四分位 1.01 (0.63-1.62) 傾向性P値=0.97 日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による遠位結腸腺 腫有病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.10 (0.67-1.79) 第3四分位 1.43 (0.90-2.28) 第4四分位 1.21 (0.74-1.96) 傾向性P値=0.35		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							直腸腺腫有病	DFSA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による直腸腺腫有 病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.94 (0.48-1.84) 第3四分位 0.64 (0.30-1.36) 第4四分位 0.71 (0.34-1.48) 傾向性P値=0.26 動物食品食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による直腸腺腫有 病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.66 (0.33-1.34) 第3四分位 0.64 (0.31-1.32) 第4四分位 0.62 (0.30-1.28) 傾向性P値=0.22 日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による直腸腺腫有 病のオッズに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.58 (0.71-3.51) 第3四分位 1.56 (0.70-3.47) 第4四分位 1.79 (0.82-3.92) 傾向性P値=0.18		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目		結果			
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
5	Hirose Kaoru, et al (2007)	愛知県	HERPACC 研究参加 者 40-79歳、 症例、 1,885人、 対照、 22,333人	症例 対照 研究	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	HERPACC研究参加者の対照女性 22333人を対象に、31食品・飲料に 基づき抽出された食事パターン 健康食パターンは、野菜、果物、豆 乳、魚、牛乳の高摂取と脂が多く塩 分の多い食品の低摂取に特徴づけ られる。(説明率: 3.0 %)	乳がん発症	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、最も得点が低い群に比 べ最も高い群で統計学的有意にオッズが 27%低かった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.89 (0.78-1.01) 第3四分位 0.85 (0.74-0.97) 第4四分位 0.73 (0.63-0.84) 傾向性P値<0.0001	年齢 受診年 動機 BMI 閉経状況 出産人数 最初の妊娠年 齢 初経年齢 喫煙状況 飲酒状況 乳がん家族歴 身体活動	食事パター ン 乳がん 成年女性
						脂肪パターンは、肉、ハム、ソー セージ、その他の油の多い食品の 高摂取に特徴づけられる。(説明率: 2.0 %)		脂肪パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による乳がん発症 リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.12 (0.98-1.28) 第3四分位 0.97 (0.84-1.11) 第4四分位 0.99 (0.85-1.14) 傾向性P値=0.41		
						日本食パターンは、朝食の米飯、 みそ汁の高摂取とコーヒーの低摂 取に特徴づけられる。(説明率: 1.4%)		日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による乳がん発症 リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.16 (1.01-1.33) 第3四分位 1.10 (0.96-1.27) 第4四分位 1.04 (0.90-1.20) 傾向性P値=0.82		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザイン	調査項目		結果			
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						食塩パターンは、塩辛い食品(漬物、塩蔵/乾燥魚)の高摂取に特徴づけられる。(説明率: 1.2%)		食塩パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比を算出した結果、得点による乳がん発症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.08 (0.95-1.24) 第3四分位 1.04 (0.91-1.19) 第4四分位 1.04 (0.90-1.19) 傾向性P値=0.76		
6	Oba Shimo, et al (2009)	岐阜県高山市	高山スタディ参加者 35歳以上、29,079人 (男性 13,355人、女性 15,724人)	前向き研究 追跡期間7年	食物摂取頻度調査 (FFQ)	食事バランスガイド遵守得点	がん死亡	得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点によるがん死亡リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95% 信頼区間): 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.98 (0.73-1.30) 第3四分位 0.95 (0.71-1.26) 第4四分位 1.05 (0.80-1.39) 傾向性P値=0.76 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.68 (0.47-0.98) 第3四分位 0.89 (0.64-1.26) 第4四分位 0.92 (0.66-1.29) 傾向性P値=0.84	年齢 BMI 喫煙状況 身体活動量 教育歴 高血圧既往 糖尿病既往 閉経状況	食事バラン スガイド がん死亡 成年男女

					調査項目		結果			
番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
7	Kurotani Kayo, et al (2010)	福岡県	福岡大腸 がん研究 参加者 40-74歳、 症例、800 人、対照、 775人	症例 対照 研究	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	福岡大腸がん研究参加者の対照 群775人を対象に、29食品群に基 づき抽出された食事パターン 健康食パターンは、野菜、果物、海 藻、大豆食品の高摂取に特徴づけ られる。(説明率: 12.3 %)	大腸がん発症	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による大腸がん発 症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.04 (0.78-1.39) 第3四分位 0.81 (0.60-1.10) 第4四分位 0.79 (0.58-1.08) 傾向性P値=0.05	性別 年齢 居住地 喫煙状況 飲酒状況 10年前のBMI 職種 余暇の身体活 動量 両親の大腸が ん歴 総エネルギー 摂取量	食事パター ン 大腸がん 40歳以上 の男女
						高脂肪食パターンは、脂肪、油、赤 肉、加工肉、マヨネーズ、鶏肉、パ ン、麺類の高摂取と米飯の低摂取 に特徴づけられる。(説明率: 10.8 %)		高脂肪食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による大腸がん発 症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.08 (0.81-1.44) 第3四分位 1.13 (0.85-1.51) 第4四分位 0.99 (0.73-1.34) 傾向性P値=0.96		
						軽食パターンは、洋菓子、和菓子、 乳製品、パン、果物の高摂取に特 徴づけられる。(説明率: 5.6%)		軽食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による大腸がん発 症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.07 (0.80-1.43) 第3四分位 0.95 (0.70-1.30) 第4四分位 1.19 (0.86-1.65) 傾向性P値=0.42		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							近位結腸がん発 症	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による近位結腸が ん発症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.90 (1.14-3.19) 第3四分位 1.28 (0.74-2.22) 第4四分位 1.23 (0.71-2.15) 傾向性P値=0.87		
								高脂肪食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による近位結腸が ん発症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.28 (0.79-2.07) 第3四分位 1.63 (1.02-2.61) 第4四分位 1.09 (0.66-1.82) 傾向性P値=0.47		
								軽食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による近位結腸が ん発症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.79 (0.48-1.30) 第3四分位 0.96 (0.58-1.61) 第4四分位 1.05 (0.62-1.79) 傾向性P値=0.65		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							遠位結腸がん発 症	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、最も得点が低い群に比 べ、最も高い群では、遠位結腸がん発症 リスクが統計学的有意に50%低かった。 オッズ比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.83(0.56-1.23) 第3四分位 0.68(0.44-1.03) 第4四分位 0.50(0.32-0.78) 傾向性P値=0.002		
								高脂肪食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による遠位結腸が ん発症リスクに差は見られなかった。 オッズ比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.95(0.64-1.42) 第3四分位 1.04(0.69-1.56) 第4四分位 0.91(0.59-1.39) 傾向性P値=0.78		
								軽食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による遠位結腸が ん発症リスクに差は見られなかった。 オッズ比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 1.08(0.72-1.62) 第3四分位 0.89(0.57-1.40) 第4四分位 1.17(0.73-1.87) 傾向性P値=0.70		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							直腸がん発症	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による直腸がん発 症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.93 (0.64-1.34) 第3四分位 0.81 (0.55-1.20) 第4四分位 0.95 (0.64-1.41) 傾向性P値=0.65		
								高脂肪食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による直腸がん発 症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.15 (0.79-1.66) 第3四分位 0.99 (0.68-1.46) 第4四分位 1.06 (0.72-1.56) 傾向性P値=0.99		
								軽食パターン 得点の四分位で対象者を分け、オッズ比 を算出した結果、得点による直腸がん発 症リスクに差は見られなかった。 オッズ比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.24 (0.85-1.81) 第3四分位 1.02 (0.68-1.54) 第4四分位 1.29 (0.84-1.97) 傾向性P値=0.42		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザイン	調査項目		結果			
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
8	Pham Truong- Minh, et al (2010)	全国45地 域	JACC研究 参加者 40-79歳、 63,403人 (男性 25,730人、 女性 37,673人)	前向 き研 究 追跡 期間 平均 値 男性 12.7 年、 女性 13.5 年	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	JACC研究参加者の男性25730人、 女性37673人を対象に、38食品・飲 料に基づき抽出された食事パター ン 野菜パターンは、野菜、いも類、き のこ類、海藻、大豆製品、果物、み そ汁、新鮮な魚の高摂取に特徴づ けられる。(説明率: 男性 12.6%; 女 性 11.3%) 動物性食品パターンは、肉、揚げ 物、魚加工品、塩蔵魚の高摂取に 特徴づけられる。(説明率: 男性 6.7%; 女性 6.6%)	胃がん死亡	野菜パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による胃がん死 亡リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.03 (0.74-1.43) 第3四分位 0.92 (0.65-1.29) 第4四分位 1.15 (0.83-1.59) 傾向性P値=0.47 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.00 (0.63-1.54) 第3四分位 0.83 (0.51-1.34) 第4四分位 0.99 (0.63-1.57) 傾向性P値=0.83 動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による胃がん死 亡リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.12 (0.80-1.54) 第3四分位 1.14 (0.81-1.58) 第4四分位 1.02 (0.73-1.45) 傾向性P値=0.90 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.45 (0.92-2.29) 第3四分位 1.32 (0.81-2.16) 第4四分位 1.31 (0.78-2.21) 傾向性P値=0.41	年齢 喫煙状況 消化性潰瘍既 往歴 胃がんスクリー ニング BMI 教育歴 総エネルギー 摂取量	食事パター ン 胃がん 成年男女

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目		結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整 キーワード
						乳製品パターンは、牛乳、乳製品、 果物、コーヒー、紅茶の高摂取に特 徴づけられる。(説明率: 男性 5.9%; 女性 6.2%)		乳製品パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、女性では得点による 胃癌死亡リスクに差は見られなかった ものの、男性では最も得点が低い群に比 べ最も高い群では、リスクが28%低かつ た。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.82 (0.61-1.10) 第3四分位 0.74 (0.54-1.01) 第4四分位 0.72 (0.52-0.99) 傾向性P値=0.03 女性 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.96 (0.64-1.45) 第3四分位 0.74 (0.47-1.18) 第4四分位 0.77 (0.48-1.23) 傾向性P値=0.17	

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
9	Kumagai Yumi, et al (2014)	大崎(宮城 県)	大崎国民 健康保険 コホート参 加者 40-79歳、 44,097人 (男性 21,075人、 女性 23,022人)	前向 き研 究 追跡 期間 11年	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	大崎国民健康保険コホート参加者の男女44097人を対象に、40食品・飲料に基づき抽出された食事パターン 日本食パターンは、大豆製品、魚、海藻、野菜、果物、緑茶の高摂取に特徴づけられる。	大腸がん発症	日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による大腸がん発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.02 (0.83-1.25) 第3四分位 1.06 (0.86-1.31) 第4四分位 1.04 (0.84-1.30) 傾向性P値=0.37	年齢 性別 BMI 喫煙状況 歩行時間 教育歴 総エネルギー 摂取量 大腸がん家族 歴	食事パター ン 大腸がん 成年男女
						動物性食品パターンは、多様な動物性食品(牛肉、豚肉、ハム、ソーセージ、鶏肉、肝臓、バター)、コーヒ、アルコール飲料の高摂取に特徴づけられる。		動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による大腸がん発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.90 (0.74-1.11) 第3四分位 0.93 (0.76-1.15) 第4四分位 0.99 (0.80-1.23) 傾向性P値=0.88		
						DFA食事パターンは、乳製品(牛乳、ヨーグルト)、マーガリン、果物、野菜(にんじん、カボチャ、トマト)の高摂取と米飯、みそ汁、アルコール飲料の低摂取に特徴づけられる。		DFA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ、最も得点が高い群で、大腸がん発症リスクが24%低かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.88 (0.72-1.06) 第3四分位 0.82 (0.66-1.03) 第4四分位 0.76 (0.60-0.97) 傾向性P値=0.02		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							結腸がん発症	日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による結腸がん 発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.89 (0.68-1.15) 第3四分位 1.00 (0.77-1.30) 第4四分位 1.01 (0.77-1.32) 傾向性P値=0.37 動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による結腸がん 発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.86 (0.67-1.10) 第3四分位 0.89 (0.69-1.15) 第4四分位 0.87 (0.66-1.13) 傾向性P値=0.68 DFA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による結腸がん 発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.93 (0.73-1.19) 第3四分位 0.89 (0.67-1.17) 第4四分位 0.89 (0.66-1.19) 傾向性P値=0.43		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							直腸がん発症	日本食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による直腸がん発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.26 (0.91-1.75) 第3四分位 0.13 (0.80-1.59) 第4四分位 1.05 (0.73-1.51) 傾向性P値=0.74 動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による直腸がん発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.07 (0.76-1.51) 第3四分位 1.09 (0.77-1.55) 第4四分位 1.23 (0.86-1.76) 傾向性P値=0.58 DFA食事パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、最も得点が低い群に比べ、最も得点が高い群で、直腸がん発症リスクが44%低かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.79 (0.58-1.07) 第3四分位 0.76 (0.53-1.08) 第4四分位 0.56 (0.37-0.84) 傾向性P値=0.003		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
10	Kurotani Kayo, et al (2016)	全国11保 健所	JPHC研究 参加者 45-75歳、 79,594人 (男性 36,624人、 女性 42,970人)	前向 き研 究 平均 追跡 期間 14.9 年	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	食事バランスガイド遵守得点	がん死亡	得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点によるがん死亡 リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間): 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.94 (0.87-1.02) 第3四分位 0.94 (0.86-1.02) 第4四分位 0.96 (0.87-1.07) 食事バランスガイド遵守得点が10点増加 する毎の ハザード比 (95%信頼区間): 0.96 (0.93-1.00) 傾向性P値=0.053	年齢 性別 地域 BMI 喫煙状況 総身体活動量 高血圧既往歴 糖尿病既往歴 脂質異常症既 往歴 コーヒー摂取 緑茶摂取 職業	食事バラン スガイド がん死亡 成年男女

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目		結果			
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
11	Okada Emiko, et al (2016)	全国45地 域	JACC研究 参加者 40-79歳、 男性、 26,562人	前向 き研 究 追跡 期間 中央 値 18.9 年	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	JACC研究参加者の男性25,562人 を対象に、39 食品に基づき抽出さ れた食事パターン 野菜パターンは、野菜(にんじん、 キャベツ、ほうれん草、白菜、トマ ト)、海藻、いも類、豆腐、きのこ類、 柑橘類、その他の果物、新鮮な魚、 煮豆の高摂取に特徴づけられる。 (説明率: 15.0%) 動物性食品パターンは、肉(鶏肉、 ハム、肝臓、豚肉、牛肉)、揚げ物、 揚げ野菜、揚げ魚の高摂取に特徴 づけられる。(説明率: 5.3%) 乳製品パターンは、乳製品(チー ズ、ヨーグルト、バター)、牛乳、 マーガリン、コーヒー、お茶の高摂 取に特徴づけられる。(説明率: 4.8%)	食道がん死亡	野菜パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による食道がん 死亡リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.77 (0.47-1.27) 第3四分位 0.84 (0.51-1.39) 第4四分位 0.81 (0.48-1.36) 傾向性P値 = 0.53 動物性食品パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による食道がん 死亡リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 1.62 (0.96-2.74) 第3四分位 0.98 (0.55-1.75) 第4四分位 1.15 (0.65-2.04) 傾向性P値 =0.75 乳製品パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、最も得点が低い群に 比べ、最も高い群では、食道がん死亡リ スクが33%低かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1四分位 1.00 (基準) 第2四分位 0.84 (0.54-1.30) 第3四分位 0.47 (0.26-0.83) 第4四分位 0.67 (0.38-1.18) 傾向性P値 = 0.04	年齢 地域 BMI 教育歴 喫煙状況 飲酒状況 総エネルギー 摂取量	食事パター ン 食道がん 成年男性

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
12	Shin Sangah, et al (2016)	全国11保 健所	JPHC研究 参加者 45-75歳、 女性、 49,552人	前向 き研 究 平均 追跡 期間 14.6 年	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	JPHC研究参加者の女性49552人を 対象に、48食品群に基づき抽出さ れた食事パターン(Nanri et al. 2012) 健康食パターンは、野菜、果物、大 豆製品、いも類、海藻類、きのこ 類、魚の高摂取に特徴づけられる。 (説明率: 20.7%) 欧米食パターンは、パン、肉、加工 肉、乳製品、汁物、コーヒー、ソフト ドリンク、紅茶、ソース、マヨネー ズ、ドレッシングの高摂取に特徴づ けられる。(説明率: 5.5%) 伝統食パターンは、鮭、魚以外の 魚介類、脂の多い魚、脂の少ない 魚、塩蔵魚、鶏肉、漬物の高摂取 に特徴づけられる。(説明率: 3.7%)	乳がん発症	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による乳がん発 症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.88 (0.69-1.11) 第3五分位 1.07 (0.85-1.35) 第4五分位 0.97 (0.77-1.23) 第5五分位 0.96 (0.75-1.23) 傾向性P値=0.93 欧米食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、最も得点が低い群に 比べ最も高い群では、乳がん発症リスク が1.3倍高かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.07 (0.84-1.37) 第3五分位 1.14 (0.89-1.46) 第4五分位 1.10 (0.86-1.42) 第5五分位 1.32 (1.03-1.70) 傾向性P値=0.04 伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による乳がん発 症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.15 (0.91-1.47) 第3五分位 1.18 (0.93-1.50) 第4五分位 1.00 (0.78-1.28) 第5五分位 1.03 (0.80-1.32) 傾向性P値=0.69	年齢 地域 総エネルギー 摂取量 BMI 喫煙状況 余暇の身体活 動量 総身体活動量 初経年齢 出産人数 初産の年齢 閉経状況 女性ホルモン 補充療法	食事パター ン 乳がん 成年女性

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目		アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目		利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
13	Nanri Akiko, et al (2017)	全国11保 健所管内	JPHC研究 参加者 45-74歳、 81,720人 (男性 36,737人、 女性 44,983人)	前向 き研 究 平均 追跡 期間 14.8 年	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	JPHC研究参加者の男性47,408人、 女性54,222人を対象に、48食品群 に基づき、男女別に抽出された食 事パターン 健康食パターンは、野菜、果物、大 豆製品、いも類、海藻類、きのこ 類、魚(脂の多い魚、魚以外の魚介 類、魚加工品)の高摂取に特徴づ けられる。	がん死亡	健康食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点によるがん死亡 リスクに差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.94(0.87-1.03) 第3四分位 0.91(0.84-0.99) 第4四分位 0.95(0.88-1.04) 傾向性P値 = 0.21	年齢 性別 地域 BMI 喫煙状況 総身体活動量 糖尿病既往歴 高血圧既往歴 総エネルギー 摂取量	食事パター ン がん死亡 成年男女
						欧米食パターンは、肉(豚肉、牛 肉)、加工肉、パン、乳製品、コー ヒー、紅茶、ソフトドリンク、ドレッシ ング、ソース、マヨネーズの高摂取 に特徴づけられる。		欧米食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、最も得点が低い群に 比べ最も高い群では、がん死亡リスクが 9%低かった。 ハザード比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.91(0.84-0.98) 第3四分位 0.87(0.80-0.94) 第4四分位 0.91(0.83-1.00) 傾向性P値 = 0.01		
						伝統食パターンは、鮭、塩蔵魚、脂 の多い魚、魚以外の魚介類、漬物 の高摂取に特徴づけられる。		伝統食パターン 得点の四分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点によるがん死亡 リスクに差は見られなかった。 ハザード比(95%信頼区間) 第1四分位 1.00(基準) 第2四分位 0.99(0.91-1.09) 第3四分位 0.98(0.88-1.08) 第4四分位 1.04(0.95-1.15) 傾向性P値 = 0.41		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザイン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
14	Kojima Reiji, et al (2017)	全国45地 域	JACC研究 参加者 40-79歳、 女性、 23,172人	前向 き研 究 追跡 期間 中央 値 16.9 年	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	JACC研究参加者の女性23172人を 対象に、39食品・飲料に基づき抽出 された食事パターン 野菜パターンは、野菜、いも類、海 藻類、豆腐、果物、新鮮な魚、卵、 みそ汁の高摂取に特徴づけられ る。(説明率: 13.18%)	乳がん発症	野菜パターン 得点の三分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による乳がん発 症リスクに差は見られなかった。 閉経前女性 ハザード比 (95%信頼区間) 第1三分位 1.00 (基準) 第2三分位 1.21 (0.59-2.47) 第3三分位 0.81 (0.35-1.89) 傾向性P値=0.61 閉経後女性 ハザード比 (95%信頼区間) 第1三分位 1.00 (基準) 第2三分位 0.98 (0.51-1.88) 第3三分位 0.93 (0.48-1.78) 傾向性P値=0.85	年齢 地域 喫煙状況 飲酒状況 乳がん家族歴 初経年齢 初産年齢 出産人数 エネルギー摂 取量 ホルモン療法 歩行時間 教育歴 BMI	食事パター ン 乳がん 成年女性
						動物性食品パターンは、肉、揚げ 物、揚げ野菜、魚加工品、塩蔵魚 の高摂取に特徴づけられる。(説明 率: 5.58%)		動物性食品パターン 得点の三分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、閉経後女性におい ては得点による乳がん発症リスクに差は見 られなかったものの、閉経前女性におい ては、最も得点が低い群に比べ最も高い 群では、リスクが58%低かった。 閉経前女性 ハザード比 (95%信頼区間) 第1三分位 1.00 (基準) 第2三分位 0.47 (0.22-1.00) 第3三分位 0.42 (0.18-0.93) 傾向性P値=0.04 閉経後女性 ハザード比 (95%信頼区間) 第1三分位 1.00 (基準) 第2三分位 1.12 (0.62-2.02) 第3三分位 0.98 (0.48-1.99) 傾向性P値=0.83		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目		結果			
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
						乳製品パターンは、牛乳、乳製品、 果物、コーヒー、紅茶の高摂取に特 徴づけられる。(説明率: 4.99 %)		乳製品パターン 得点の三分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による乳がん発 症リスクに差は見られなかった。 閉経前女性 ハザード比 (95%信頼区間) 第1三分位 1.00 (基準) 第2三分位 1.38 (0.62-3.07) 第3三分位 1.20 (0.52-2.80) 傾向性P値=0.80 閉経後女性 ハザード比 (95%信頼区間) 第1三分位 1.00 (基準) 第2三分位 0.90 (0.48-1.67) 第3三分位 1.32 (0.70-2.49) 傾向性P値=0.19		
15	Shin Sangah, et al (2017)	全国11保 健所管内	JPHC研究 参加者 45-74歳、 93,062人 (男性 43,591人、 女性 49,471人)	前向 き研 究 平均 追跡 期間 13.8 年	食物摂 取頻度 調査 (FFQ)	JPHC研究参加者の男性43,591人、 女性49,471人を対象に、48食品群 に基づき、男女別に抽出された食 事パターン(Nanri et al. 2012) 健康食パターンは、野菜、果物、麺 類、いも類、大豆製品、きのこ類、 海藻類の高摂取に特徴づけられ る。	大腸がん発症	健康食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、女性では得点による 大腸がん発症リスクに差は見られなかつ たものの、男性においては最も得点が低 い群に比べ最も高い群では、リスクが 15%低かった。。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.95 (0.81-1.11) 第3五分位 0.82 (0.70-0.96) 第4五分位 0.90 (0.77-1.05) 第5五分位 0.85 (0.72-1.00) 傾向性P値 = 0.03 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.91 (0.74-1.12) 第3五分位 0.99 (0.81-1.21) 第4五分位 0.91 (0.74-1.11) 第5五分位 0.97 (0.79-1.19) 傾向性P値 = 0.74	年齢 地域 BMI 喫煙状況 総身体活動量 総エネルギー 摂取量 閉経状況(女 性) ホルモン補充 療法(女性)	食事パター ン 大腸がん 成年男女

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目		結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整 キーワード
						欧米食パターンは、肉、加工品、う なぎ、乳製品、果物ジュース、コー ヒー、紅茶、ソフトドリンク、ソース、 アルコール飲料の高摂取に特徴づ けられる。		欧米食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による大腸がん 発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.95 (0.82-1.11) 第3五分位 0.95 (0.82-1.11) 第4五分位 0.85 (0.72-1.00) 第5五分位 0.90 (0.75-1.07) 傾向性P値 = 0.09 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.12 (0.92-1.37) 第3五分位 1.35 (1.11-1.64) 第4五分位 1.17 (0.95-1.45) 第5五分位 1.19 (0.94-1.49) 傾向性P値 = 0.08	
						伝統食パターンは、漬物、魚介類、 魚(脂の多い魚、塩蔵魚、脂の少な い魚、鮭)、鶏肉、日本酒(男性の み)の高摂取に特徴づけられる。		伝統食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による大腸がん 発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.93 (0.77-1.13) 第3五分位 0.90 (0.74-1.11) 第4五分位 0.85 (0.69-1.05) 第5五分位 0.99 (0.80-1.21) 傾向性P値 = 0.81 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.93 (0.76-1.15) 第3五分位 0.82 (0.66-1.03) 第4五分位 0.94 (0.75-1.17) 第5五分位 0.98 (0.79-1.22) 傾向性P値 = 0.78	

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							結腸がん発症	健康食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による結腸がん 発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.89 (0.73-1.08) 第3五分位 0.77 (0.63-0.94) 第4五分位 0.83 (0.68-1.01) 第5五分位 0.85 (0.70-1.04) 傾向性P値 = 0.06 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.90 (0.71-1.15) 第3五分位 1.00 (0.80-1.26) 第4五分位 0.89 (0.70-1.12) 第5五分位 0.81 (0.64-1.03) 傾向性P値 = 0.11 欧米食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、男性では得点による 結腸がん発症リスクに差は見られなかつ たものの、女性では最も得点が低い群に 比べ最も高い群では、リスクが1.3倍高 かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.03 (0.86-1.24) 第3五分位 1.02 (0.85-1.24) 第4五分位 0.92 (0.75-1.12) 第5五分位 0.94 (0.76-1.16) 傾向性P値 = 0.38 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.15 (0.91-1.45) 第3五分位 1.40 (1.12-1.76) 第4五分位 1.24 (0.97-1.59) 第5五分位 1.28 (0.98-1.68) 傾向性P値 = 0.03		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
								伝統食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による結腸がん発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.02 (0.81-1.29) 第3五分位 0.99 (0.77-1.27) 第4五分位 0.93 (0.72-1.21) 第5五分位 1.11 (0.86-1.43) 傾向性P値 = 0.55 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.89 (0.70-1.13) 第3五分位 0.84 (0.65-1.09) 第4五分位 0.89 (0.68-1.15) 第5五分位 1.00 (0.78-1.29) 傾向性P値 = 0.93		
						近位結腸がん発症		健康食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による近位結腸がん発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.17 (0.86-1.58) 第3五分位 0.92 (0.67-1.27) 第4五分位 1.00 (0.73-1.36) 第5五分位 1.12 (0.82-1.52) 傾向性P値 = 0.78 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.86 (0.63-1.17) 第3五分位 0.99 (0.74-1.34) 第4五分位 0.94 (0.69-1.27) 第5五分位 0.79 (0.58-1.08) 傾向性P値 = 0.25		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
								欧米食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による近位結腸がん発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.98 (0.73-1.30) 第3五分位 1.22 (0.92-1.62) 第4五分位 1.03 (0.76-1.40) 第5五分位 0.92 (0.65-1.29) 傾向性P値 = 0.94 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.24 (0.92-1.66) 第3五分位 1.44 (1.07-1.94) 第4五分位 1.15 (0.83-1.60) 第5五分位 1.30 (0.92-1.85) 傾向性P値 = 0.15		
								伝統食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による近位結腸がん発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.98 (0.68-1.41) 第3五分位 0.81 (0.55-1.21) 第4五分位 0.78 (0.52-1.17) 第5五分位 0.94 (0.63-1.39) 傾向性P値 = 0.63 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.01 (0.74-1.38) 第3五分位 0.88 (0.63-1.24) 第4五分位 0.88 (0.62-1.24) 第5五分位 1.08 (0.78-1.51) 傾向性P値 = 0.85		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
							遠位結腸がん発 症	健康食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、女性では得点による 遠位結腸がん発症リスクに差は見られな かったものの、男性では最も得点が低い 群に比べ最も高い群では、リスクが32% 低かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.68 (0.52-0.90) 第3五分位 0.66 (0.50-0.86) 第4五分位 0.73 (0.57-0.95) 第5五分位 0.68 (0.52-0.88) 傾向性P値 = 0.004 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.05 (0.71-1.55) 第3五分位 1.13 (0.77-1.66) 第4五分位 0.87 (0.58-1.32) 第5五分位 0.84 (0.55-1.27) 傾向性P値 = 0.33 欧米食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、男性では得点による 遠位結腸がん発症リスクに差は見られな かったものの、女性では最も得点が低い 群に比べ最も高い群では、リスクが1.3倍 高かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.06 (0.82-1.35) 第3五分位 0.92 (0.71-1.20) 第4五分位 0.83 (0.62-1.10) 第5五分位 0.95 (0.71-1.27) 傾向性P値 = 0.31 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.92 (0.61-1.38) 第3五分位 1.35 (0.91-1.99) 第4五分位 1.45 (0.97-2.17) 第5五分位 1.34 (0.86-2.09)		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
								伝統食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、得点による遠位結腸がん発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.07 (0.78-1.47) 第3五分位 1.14 (0.81-1.60) 第4五分位 0.99 (0.70-1.42) 第5五分位 1.21 (0.85-1.73) 傾向性P値 = 0.38 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.81 (0.54-1.23) 第3五分位 0.87 (0.57-1.32) 第4五分位 1.01 (0.67-1.54) 第5五分位 0.97 (0.63-1.49) 傾向性P値 = 0.92		
						直腸がん発症		健康食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード比を算出した結果、男性では得点による直腸がん発症リスクに差は見られなかったものの、女性では最も得点が低い群に比べ最も高い群では、リスクが1.5倍高かった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.08 (0.82-1.42) 第3五分位 0.93 (0.70-1.23) 第4五分位 1.06 (0.81-1.40) 第5五分位 0.84 (0.63-1.13) 傾向性P値 = 0.35 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.93 (0.62-1.39) 第3五分位 0.94 (0.62-1.41) 第4五分位 0.96 (0.63-1.44) 第5五分位 1.53 (1.04-2.23) 傾向性P値 = 0.046		

番号	著者 (発行年)	調査国・ 地域	研究対象 者 (年齢層・ 調査対象)	調査 方法 研究 デザ イン	調査項目			結果		
					食事調 査方法	テーマに関連する 調査項目	アウトカム指標 (利点、重要性 に関する調査項 目)	利点、重要性に関する 調査結果(関連)	共変量の調整	キーワード
								欧米食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による直腸がん 発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.81 (0.63-1.05) 第3五分位 0.82 (0.63-1.17) 第4五分位 0.73 (0.55-0.97) 第5五分位 0.82 (0.61-1.10) 傾向性P値 = 0.08 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.05 (0.72-1.53) 第3五分位 1.20 (0.82-1.76) 第4五分位 1.00 (0.66-1.51) 第5五分位 0.96 (0.61-1.50) 傾向性P値 = 0.89 伝統食パターン 得点の五分位で対象者を分け、ハザード 比を算出した結果、得点による直腸がん 発症リスクに差は見られなかった。 ハザード比 (95%信頼区間) 男性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 0.78 (0.56-1.07) 第3五分位 0.76 (0.54-1.07) 第4五分位 0.72 (0.50-1.02) 第5五分位 0.78 (0.55-1.11) 傾向性P値 = 0.20 女性 第1五分位 1.00 (基準) 第2五分位 1.07 (0.72-1.58) 第3五分位 0.76 (0.49-1.18) 第4五分位 1.09 (0.72-1.64) 第5五分位 0.90 (0.59-1.39) 傾向性P値 = 0.70		